



*Smart Solutions & Services
for Your Manufacturing*

2021年3月期

決算説明

2021年5月13日

芝浦メカトロニクス株式会社

目次

- 1. 2021年3月期 決算概要**
- 2. 2022年3月期 業績予想**
- 3. 中期経営計画の進捗**

業績結果 (対前年)

【連結】

単位：億円

	2019 年度	20/上	20/下	2020 年度	対前年 増減率
売上高	471	233	215	448	▲5%
営業利益	31.2	16.5	13.1	29.6	▲5%
経常利益	27.7	15.8	12.4	28.2	+2%
当期純利益	19.4	11.4	8.3	19.7	+1%
R O S	6.6%	7.0%	6.1%	6.6%	±0pt
R O E	10%	-	-	9.5%	▲0.5pt
受注高	466	182	238	420	▲10%

業績結果まとめ (対前年) ①

* SPE : 半導体前・後工程装置
FPD : FPD前・後工程装置

- 売上高 前年比5%減収 (471億円 ⇒ 448億円)
 - SPE分野は増加したが、FPD分野が減少したため、全体として減収

- 営業利益 前年比5%減益 (31.2億円 ⇒ 29.6億円)
 - 減収により営業利益は減益だが、経常利益・当期純利益は同等。
ROSは前年同等6.6%

- 受注高 前年比10%減少 (466億円 ⇒ 420億円)
 - SPE分野は増加したが、FPD分野が減少したため、全体として減少

業績結果まとめ (対前年) ②

■ ファインメカトロニクス部門

* ファインメカトロニクス部門：半導体/FPD前工程装置

➤ 売上高 前年比7%増 (278億円 ⇒ 296億円)

半導体前工程では、ロジック/ファウンドリ向けやウェーハ向けが計画通り高水準に推移し増加。

FPD前工程では、中小型パネル向けが増加し、大型パネル向けも堅調で、増加。

➤ セグメント利益 前年比36%増 (14.7億円 ⇒ 19.9億円)

売上高増加や販売管理費の減少により増益。

➤ 受注高 前年比5%減 (306億円 ⇒ 292億円)

半導体前工程は増加したが、FPD前工程が顧客投資計画の後ろ倒しにより減少したため、全体として減少。

業績結果まとめ (対前年) ③

■ メカトロニクスシステム部門

*メカトロニクスシステム部門：半導体/FPD後工程装置、真空応用装置

- 売上高 前年比26%減 (152億円 ⇒ 113億円)
半導体後工程では、最先端パッケージ向けが堅調で、ディスプレイドライバIC向けは下期に復調したものの減少。
FPD後工程では、顧客投資計画の後ろ倒しがあり、大型パネル向け、中小型パネル向けとも低調で減少。
- セグメント利益 前年比44%減 (14.0億円 ⇒ 7.9億円)
売上高減少の影響により減益。
- 受注高 前年比21%減 (115億円 ⇒ 91億円)
半導体後工程は増加したが、FPD後工程が顧客投資計画の後ろ倒しにより減少したため、全体として減少。

業績結果 (対前回予想)

【連結】

*1: 2020年8月公表
単位：億円

	2020年度		
	前回予想 *1	実績	対前回予想 増減率
売上高	460	448	▲3%
営業利益	30.0	29.6	▲1%
経常利益	28.0	28.2	+1%
当期純利益	19.5	19.7	+1%
R O S	6.5%	6.6%	+0.1pt
R O E	9.5%	9.5%	±0pt
受注高	-	420	-

業績結果まとめ (対前回予想)

- 売上高 前回予想比3%減収 (460億円 ⇒ 448億円)
 - SPE分野は増加したが、FPD分野が顧客投資計画の後ろ倒しで減少し、全体として減収

- 営業利益 前回予想比1%減益 (30.0億円 ⇒ 29.6億円)
 - 利益・ROS・ROEともほぼ同等

- 受注高 前回予想無 (⇒ 420億円)
 - SPE分野は増加したが、FPD分野が低調で、上期の大幅減少分をカバーできず

配当

当社は、配当性向（連結純利益）25%～30%を目途としています。

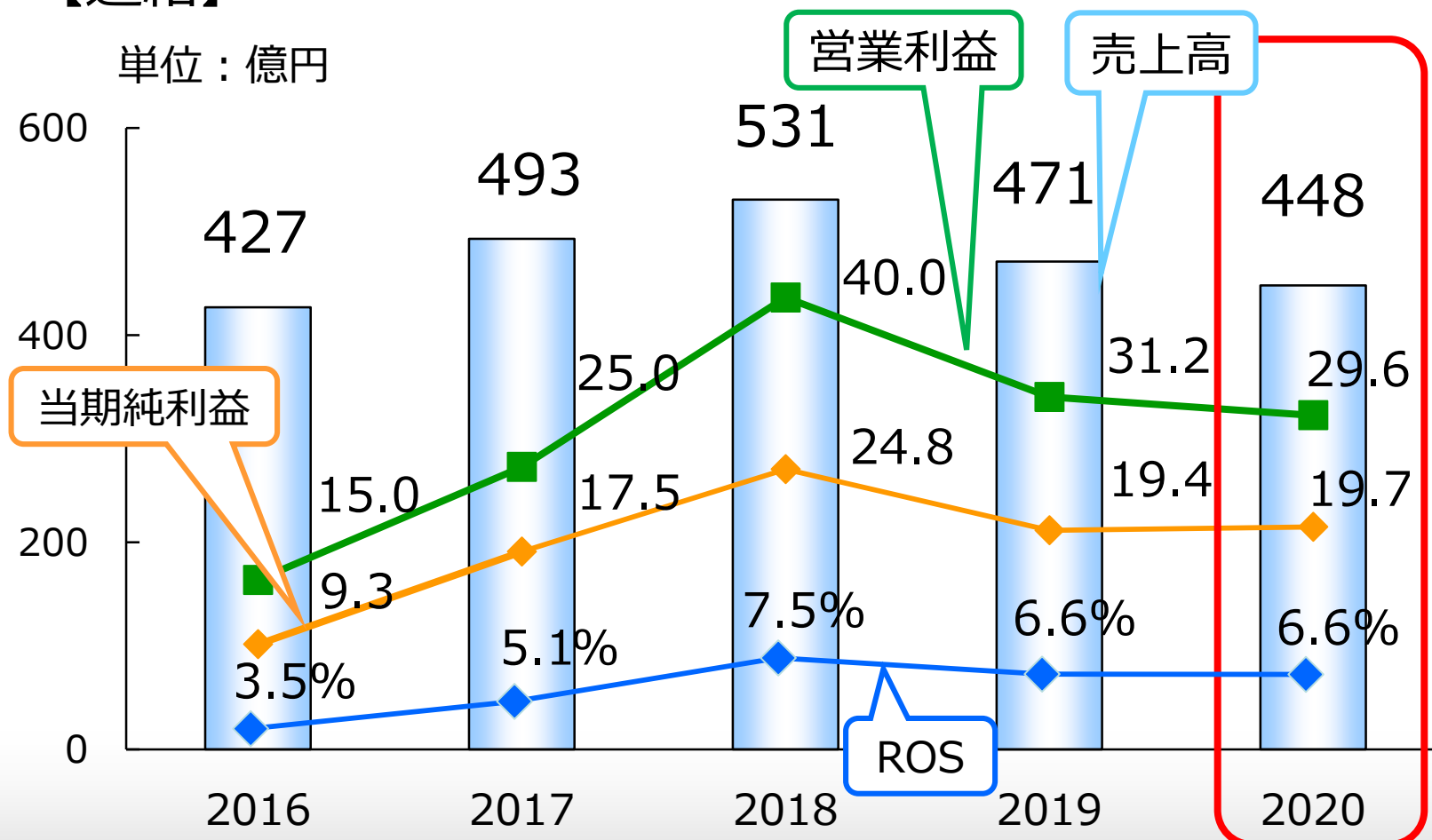
2021年3月期の期末配当は、
連結配当性向約25%の110円を予定しています。

	第2四半期 末配当	期末配当	年間配当
2021年3月期	0円	110円	110円
2020年3月期	0円	110円	110円

売上高・利益・ROS

【連結】

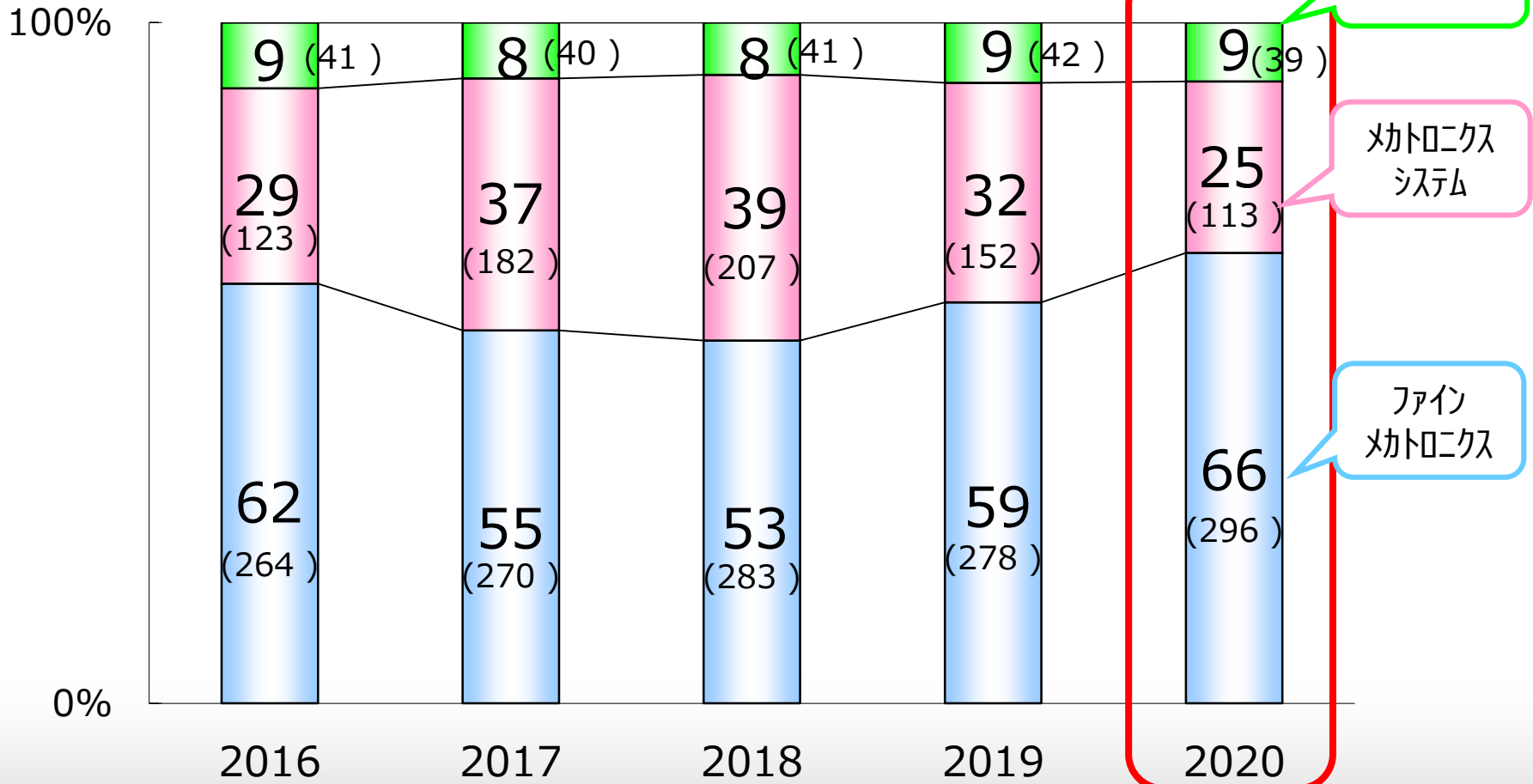
単位：億円



セグメント別売上高比率

* ファインエレクトロニクス：半導体/FPD前工程装置
 エレクトロニクスシステム：半導体/FPD後工程装置、真空応用装置
 () 内：売上高 (億円)

【連結】



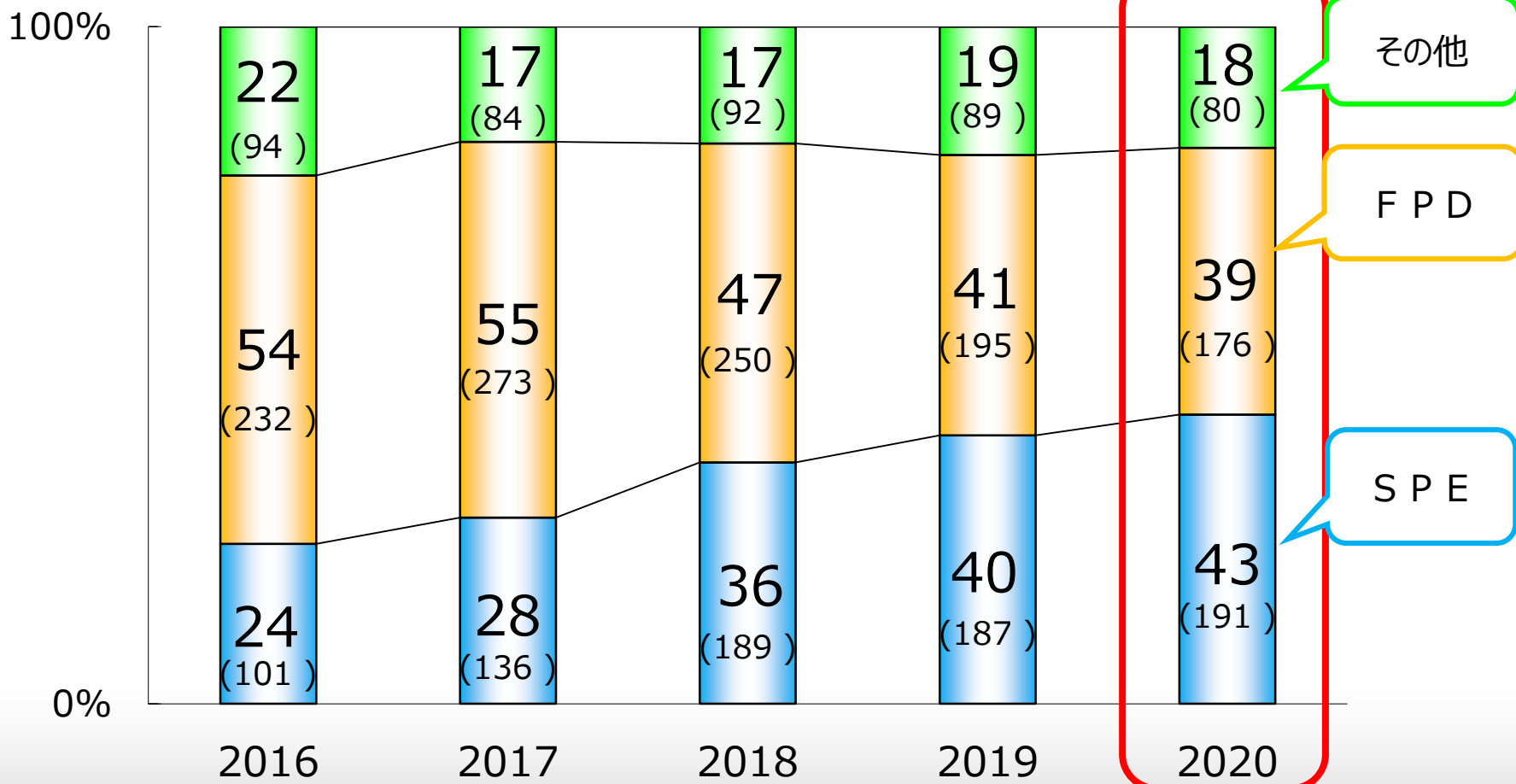
分野別売上高比率

【連結】

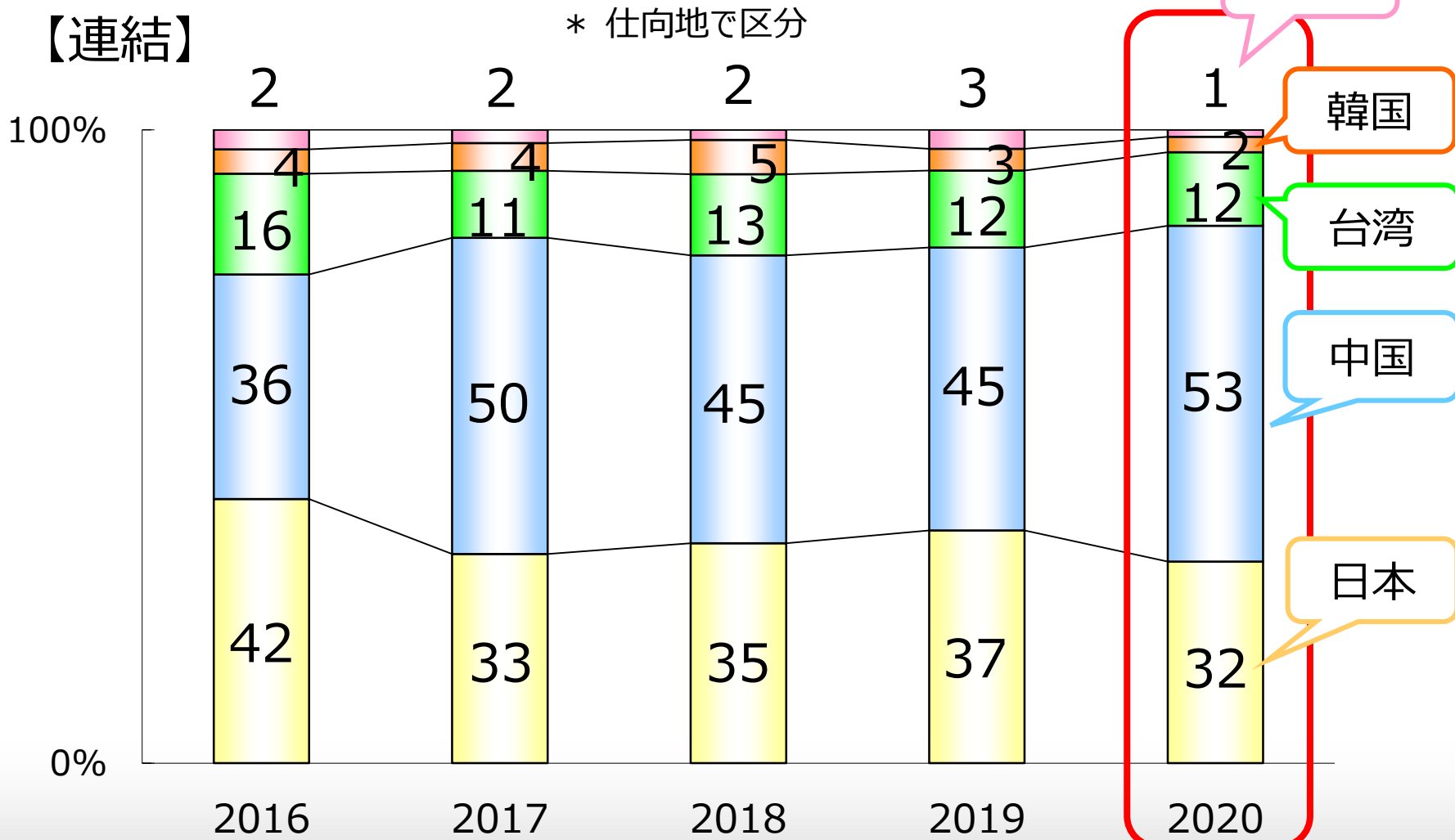
* SPE : 半導体前・後工程装置

FPD : FPD前・後工程装置

() 内 : 売上高 (億円)



地域別売上高比率

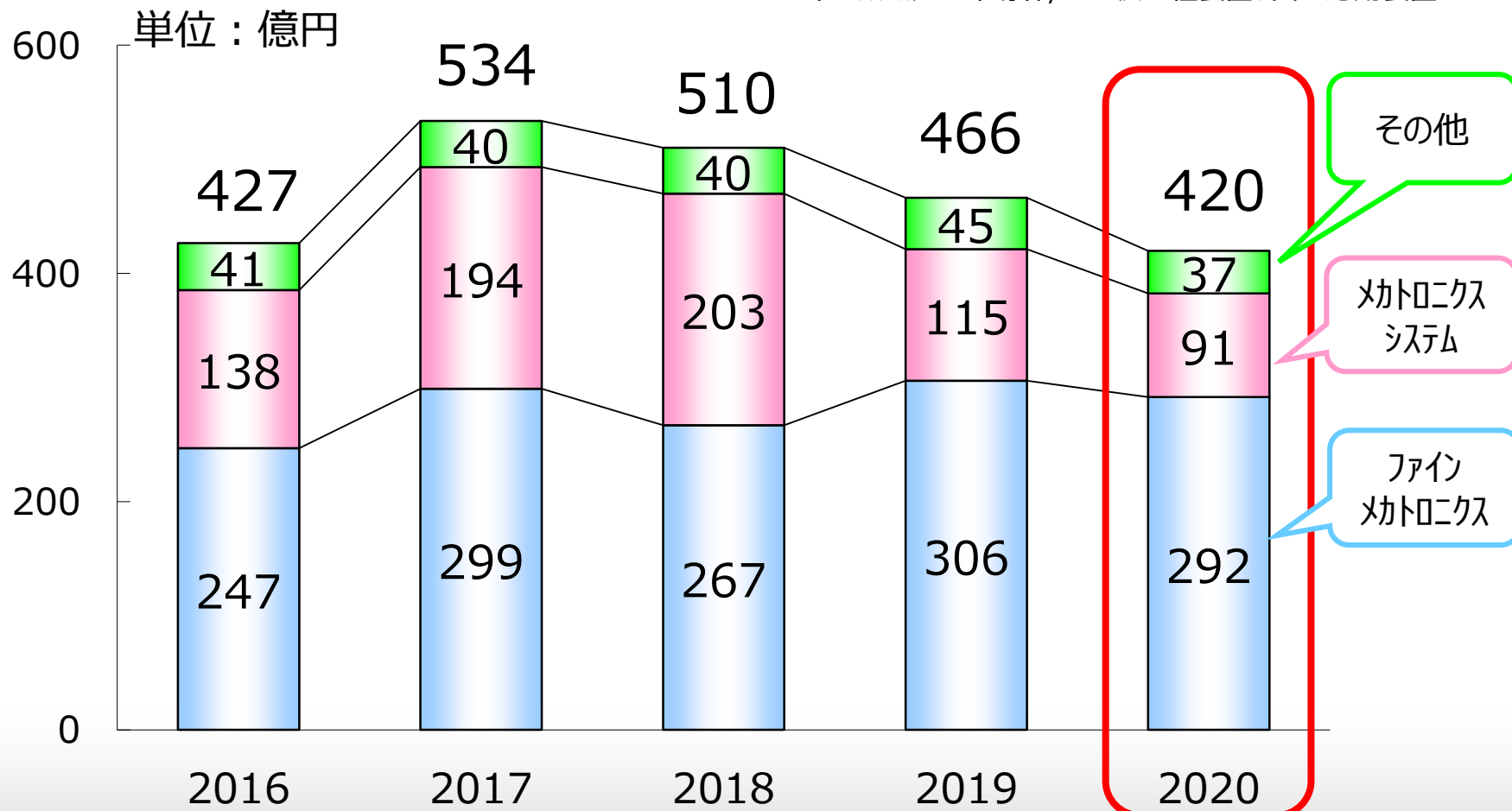


受注高

【連結】

* ファインメトロクス：半導体/FPD前工程装置

メトロクスシステム：半導体/FPD後工程装置、真空応用装置

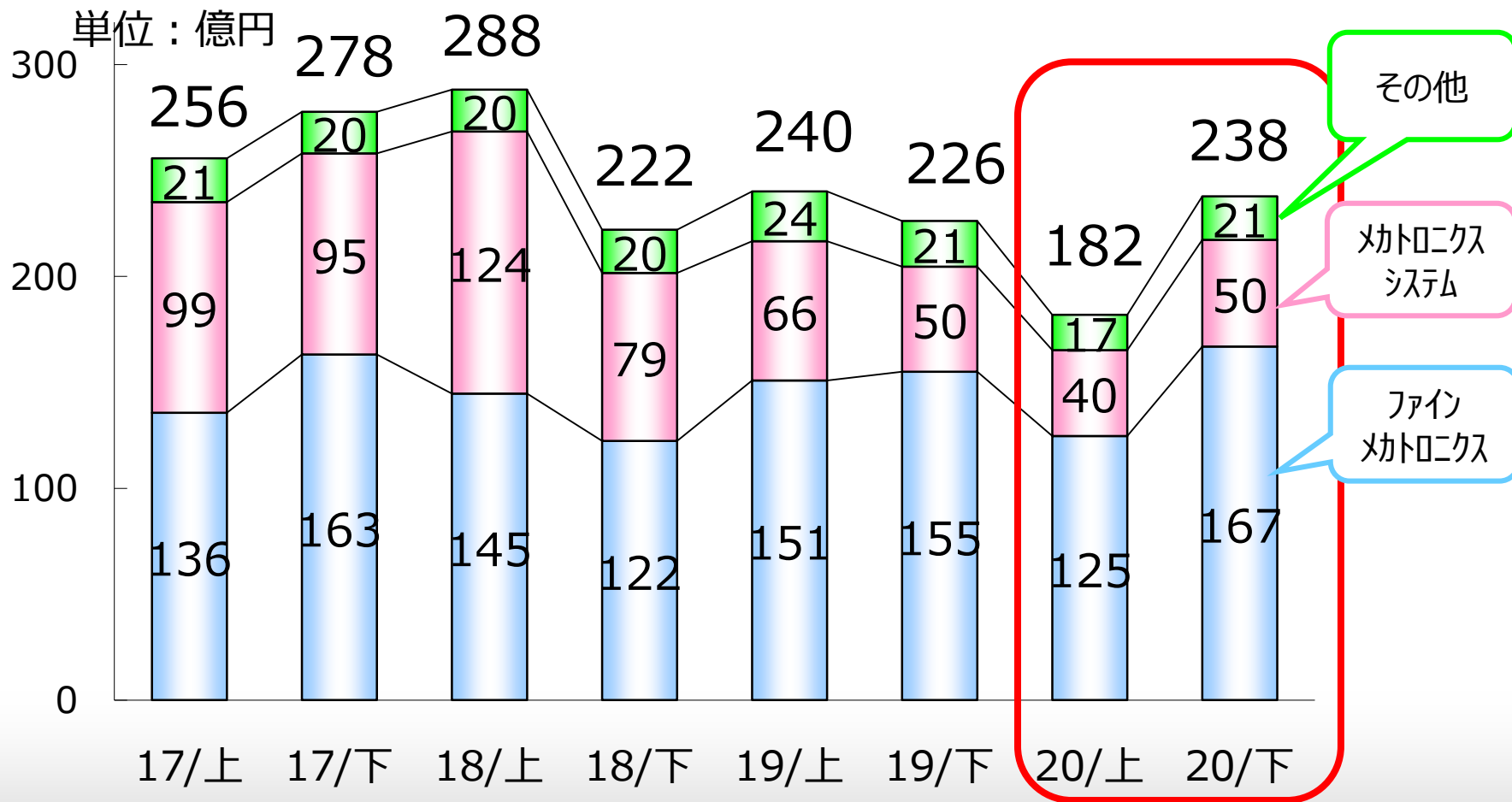


受注高 半期推移

【連結】

* ファインメカトロニクス：半導体/FPD前工程装置

メカトロニクスシステム：半導体/FPD後工程装置、真空応用装置



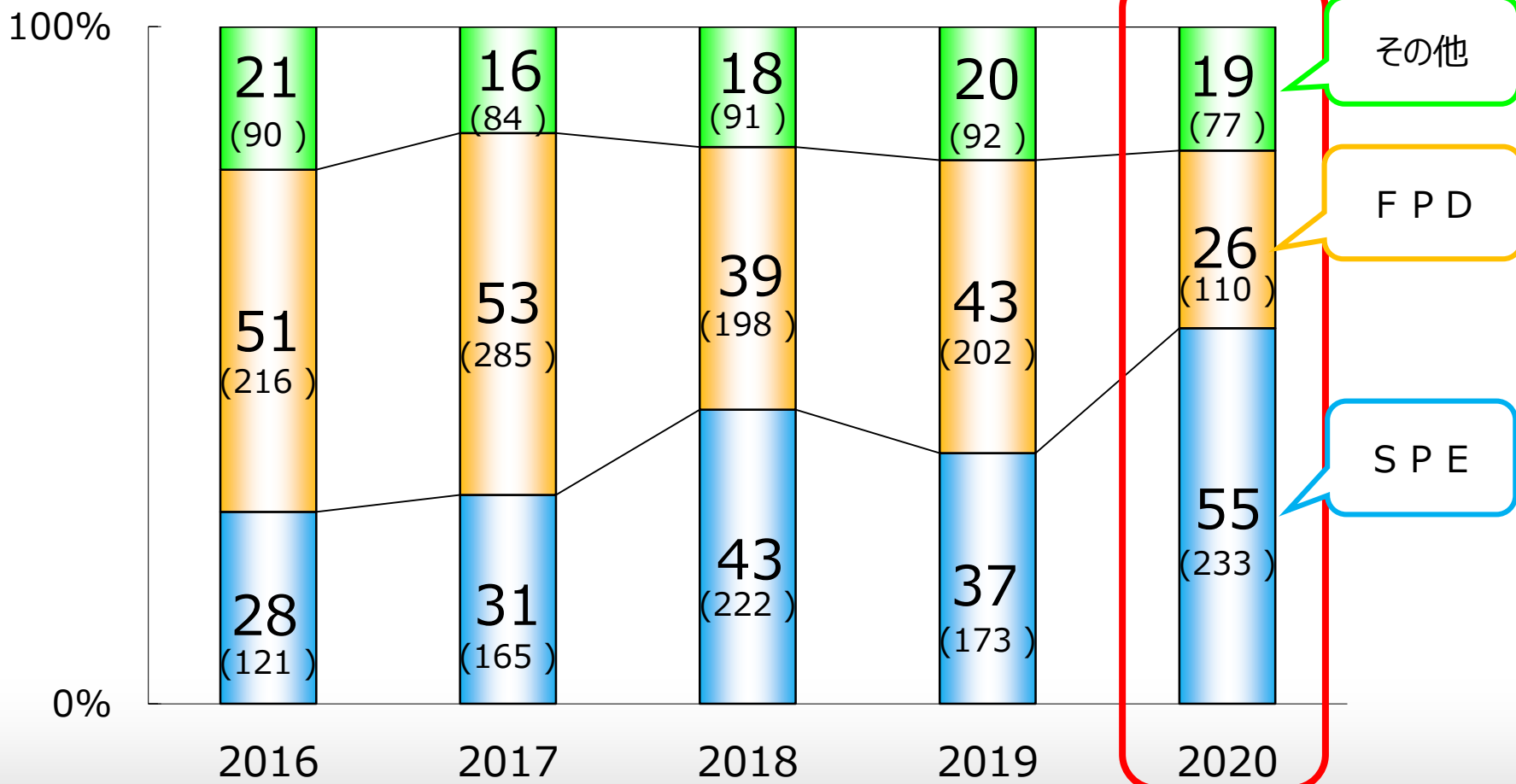
分野別受注高比率

【連結】

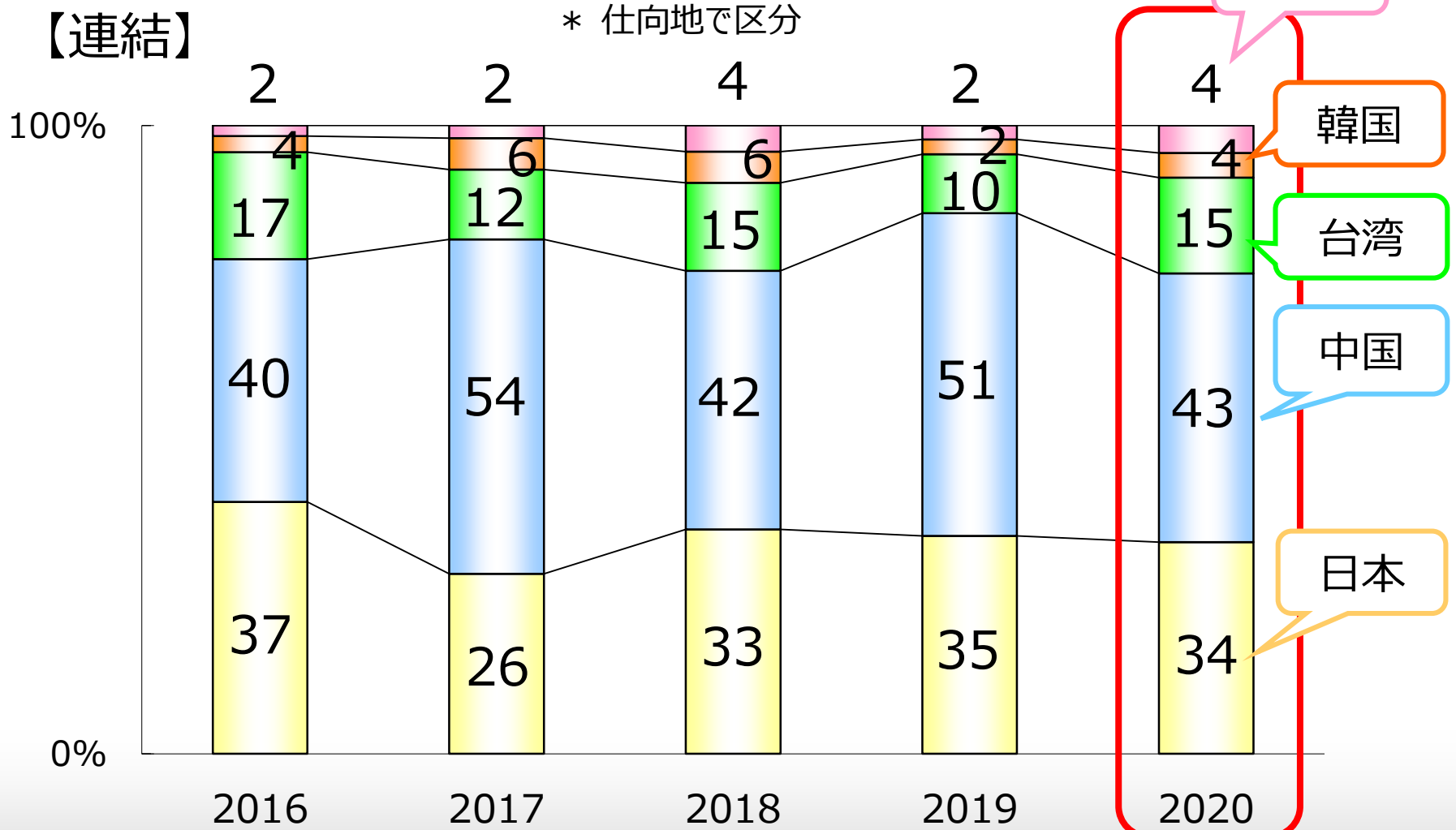
* SPE : 半導体前・後工程装置

FPD : FPD前・後工程装置

() 内 : 受注高 (億円)



地域別受注高比率

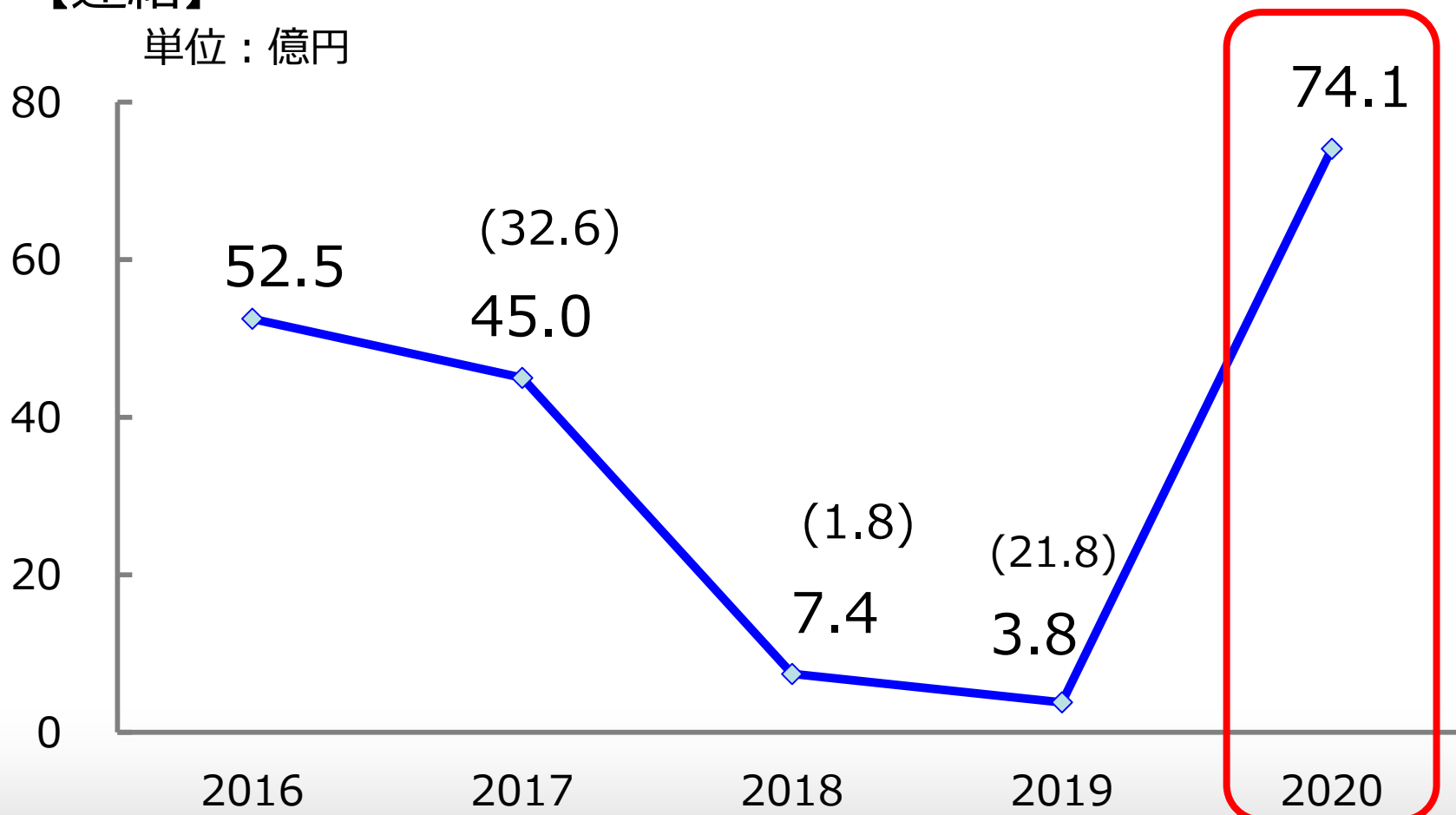


フリーキャッシュ・フロー

* () 内：期末日休日の影響を除いた
実質フリーキャッシュ・フロー

【連結】

単位：億円

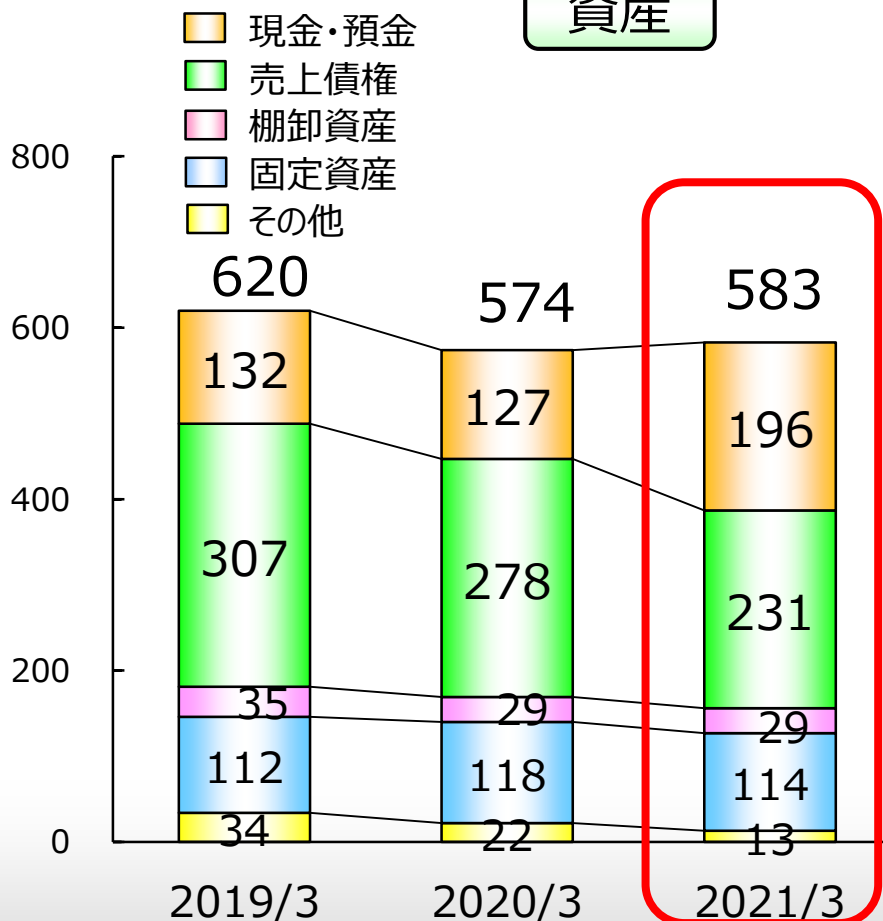


貸借対照表

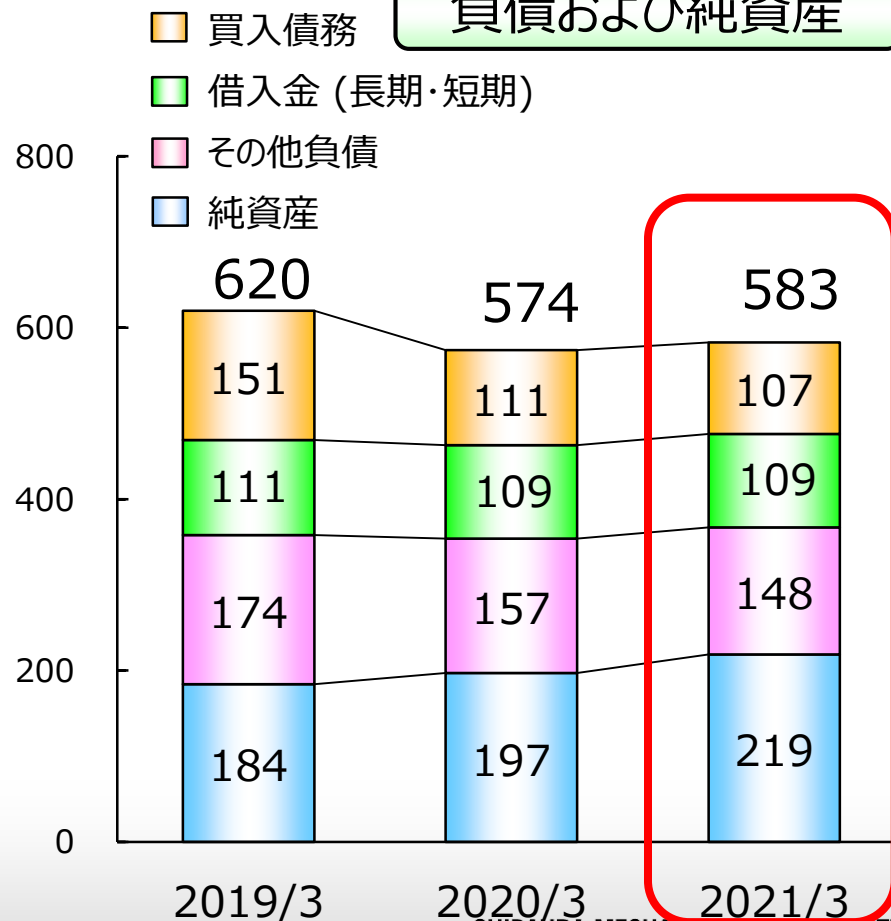
自己資本比率 37%、D/Eレシオ 50%、
ROE 9.5%

【連結】

単位：億円



単位：億円



目次

1. 2021年3月期 決算概要
- 2. 2022年3月期 業績予想**
3. 中期経営計画の進捗

業績予想

【連結】

*1: 特別損失を除外した場合

単位：億円

	2020年度		2020年度	2021年度予想		2021年度予想	対前年増減率	2021年度予想*1
	20/上	20/下		21/上予想	21/下予想			
売上高	233	215	448	230	250	480	+7%	480
営業利益	16.5	13.1	29.6	17.0	23.0	40.0	+35%	40.0
経常利益	15.8	12.4	28.2	16.0	22.0	38.0	+35%	38.0
特別損失	-	-	-	6.1	-	6.1	-	-
当期純利益	11.4	8.3	19.7	5.0	16.0	21.0	+7%	27.0
R O S	7.0%	6.1%	6.6%	7.4%	9.2%	8.3%	+1.7pt	8.3%
R O E	-	-	9.5%	-	-	9.2%	▲0.3pt	11.7%

特別損失の計上

2022年3月期第1四半期において、
当社横浜事業所内の老朽化した建物の取り壊しに伴い、当該建物の解体費用400百万円および減損損失210百万円を特別損失（事業構造改善費用）に計上することを予定しています。

なお、本件は、横浜事業所再開発の一環として、当該建物跡地を不動産賃貸事業（土地賃貸）にて活用するものです。

配当予想

当社は、配当性向（連結純利益）25%～30%を目途としています。

2022年3月期の期末配当は、特別損失反映前の連結配当性向約28%の170円を予定しています。

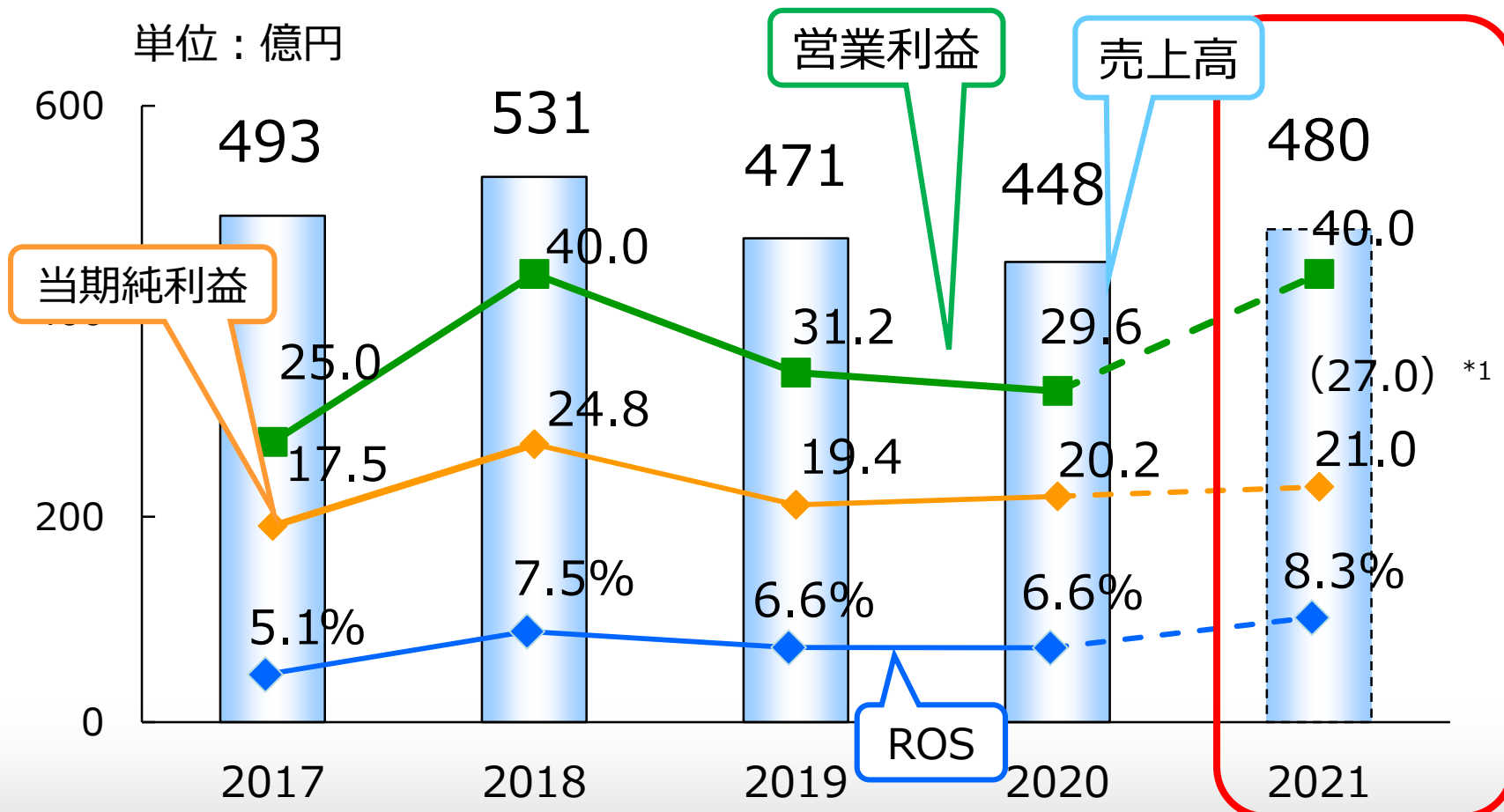
	第2四半期 未配当	期末配当	年間配当
2022年3月期	0円	170円	170円
2021年3月期	0円	110円	110円

売上高・利益・ROS

*1: 特別損失を除外した場合

【連結】

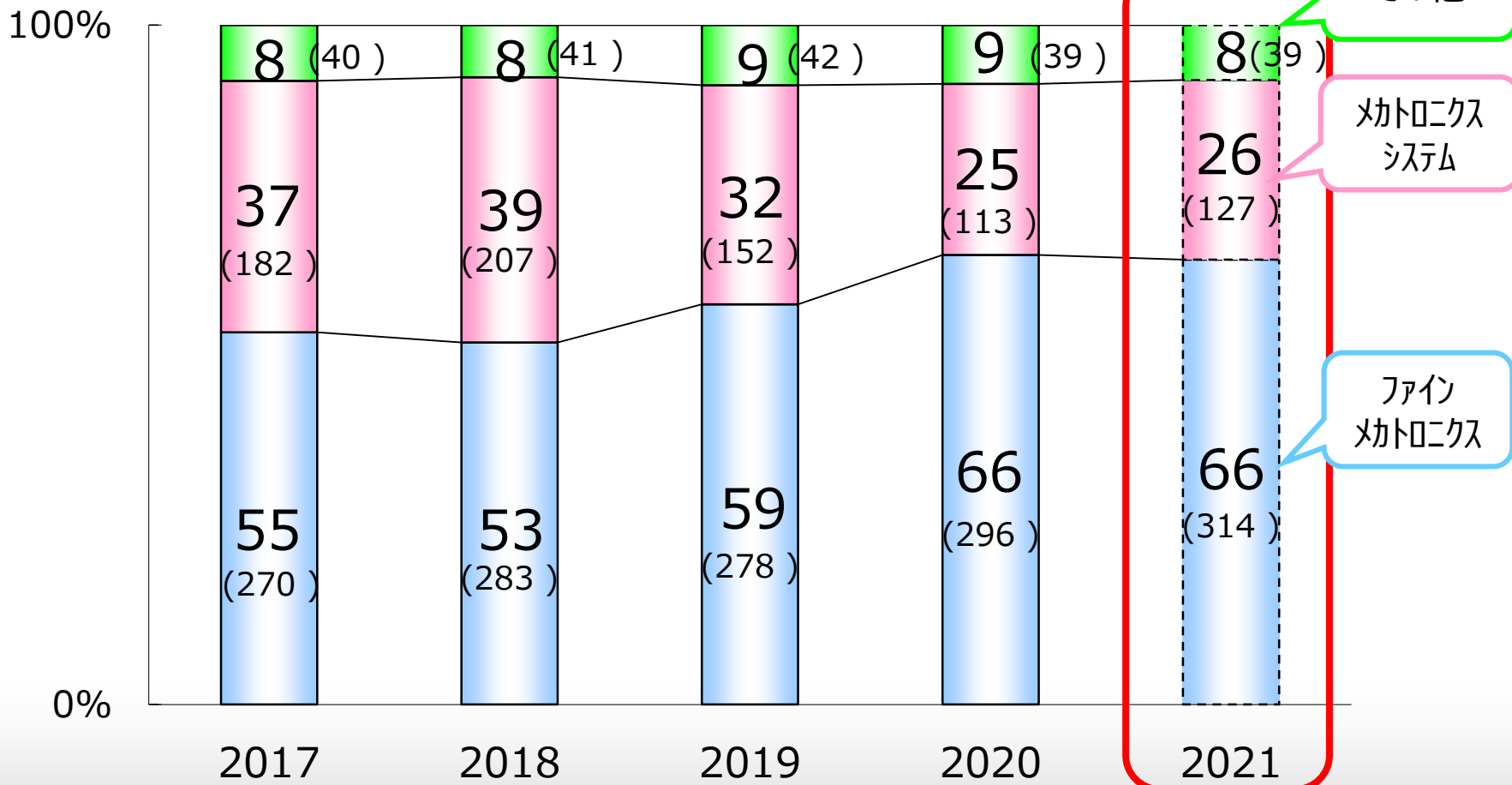
単位：億円



セグメント別売上高比率

* ファインメトロクス：半導体/FPD前工程装置
 メトロクスシステム：半導体/FPD後工程装置、真空応用装置
 () 内：売上高 (億円)

【連結】



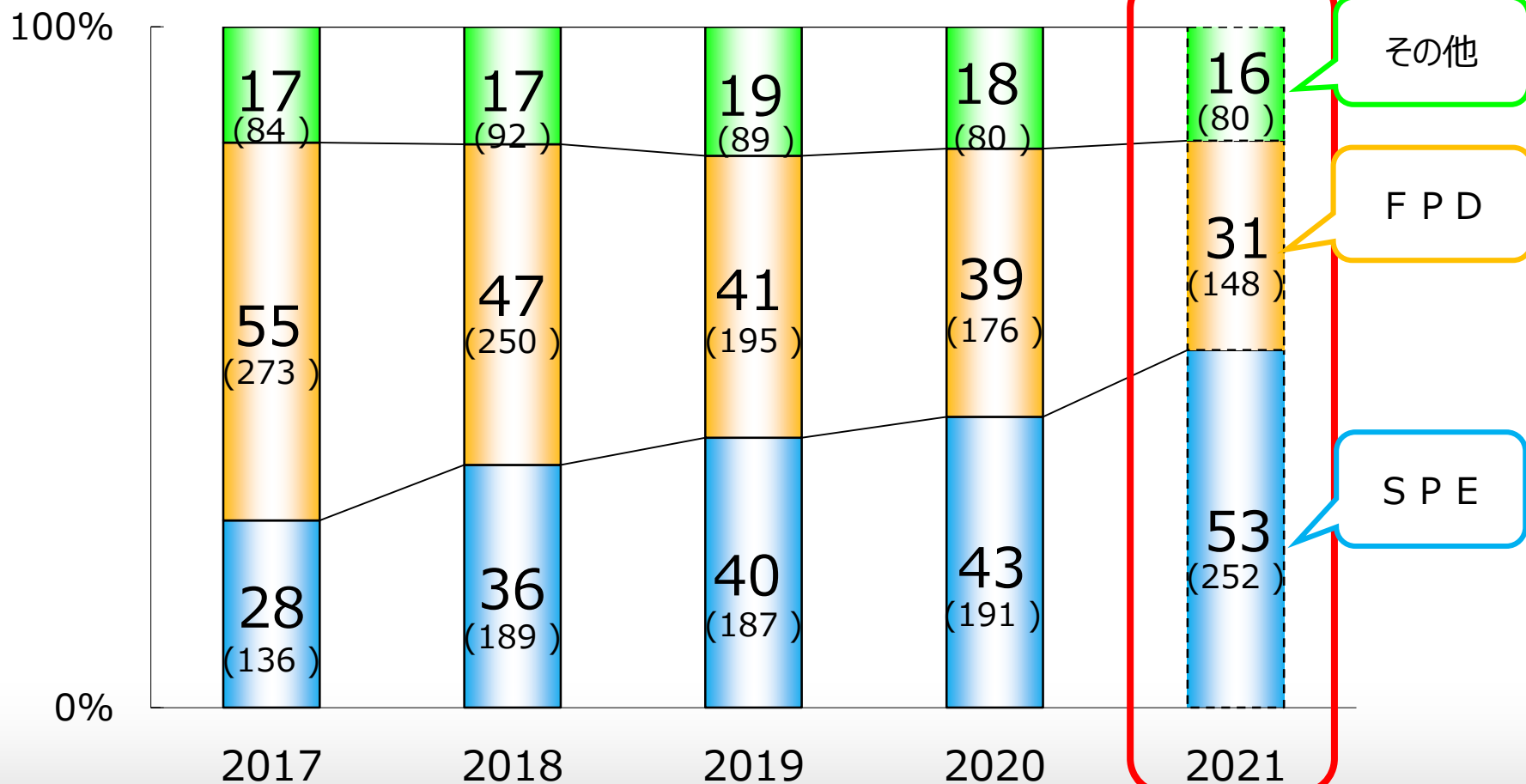
分野別売上高比率

* SPE : 半導体前・後工程装置

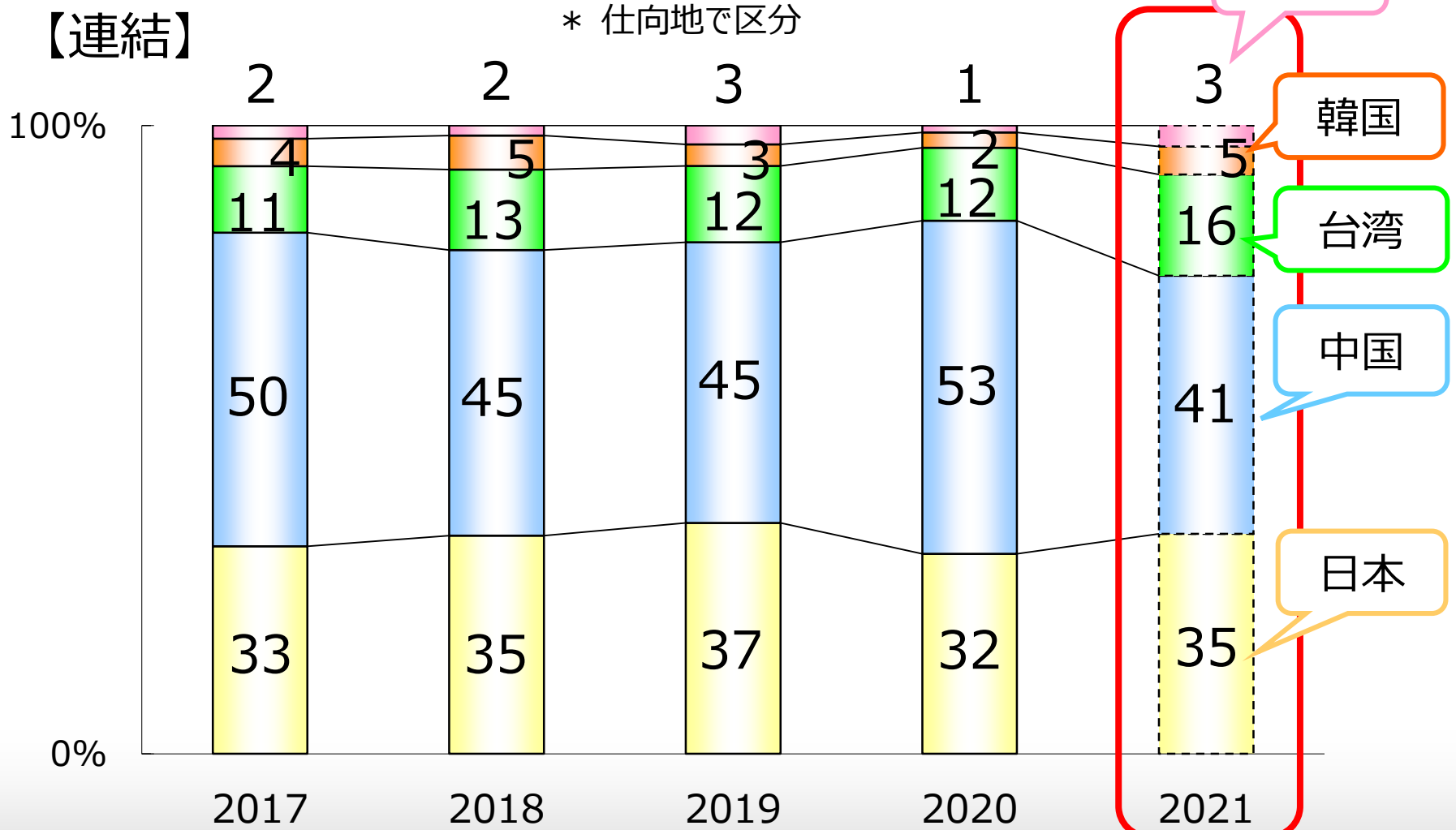
FPD : FPD前・後工程装置

() 内 : 売上高 (億円)

【連結】



地域別売上高比率

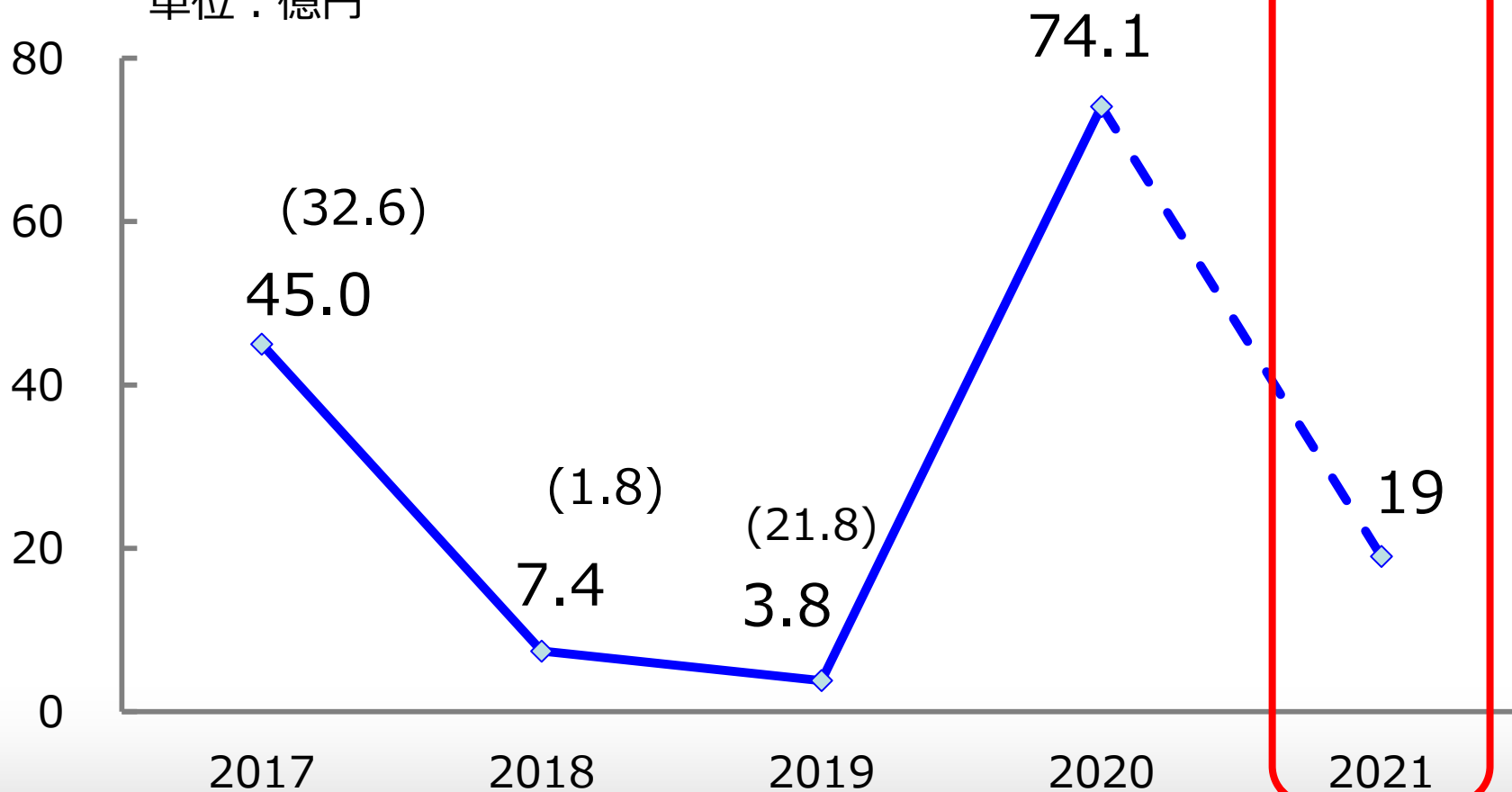


フリーキャッシュ・フロー

* () 内：期末日休日の影響を除いた
実質フリーキャッシュ・フロー

【連結】

単位：億円



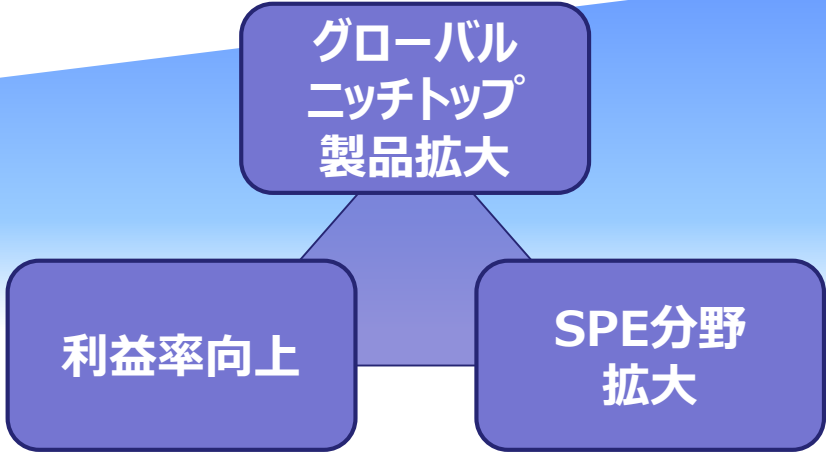
目次

1. 2021年3月期 決算概要
2. 2022年3月期 業績予想
- 3. 中期経営計画の進捗**

中期経営計画方針



SPE



FPD

これからのありたい姿

- ◆ IoT、5G、AIと、これから更に広がるデータ社会に向けて、半導体・FPD製造装置を通じた先端技術で貢献 ～「ものづくり」から「価値づくり」～
- ◆ SPE分野でグローバルニッチトップ、FPD分野で主要サプライヤとして存在感を示せる企業グループへと成長

中期経営計画の進捗

*1: 特別損失を除外した場合

*2: 2020年11月公表

単位：億円

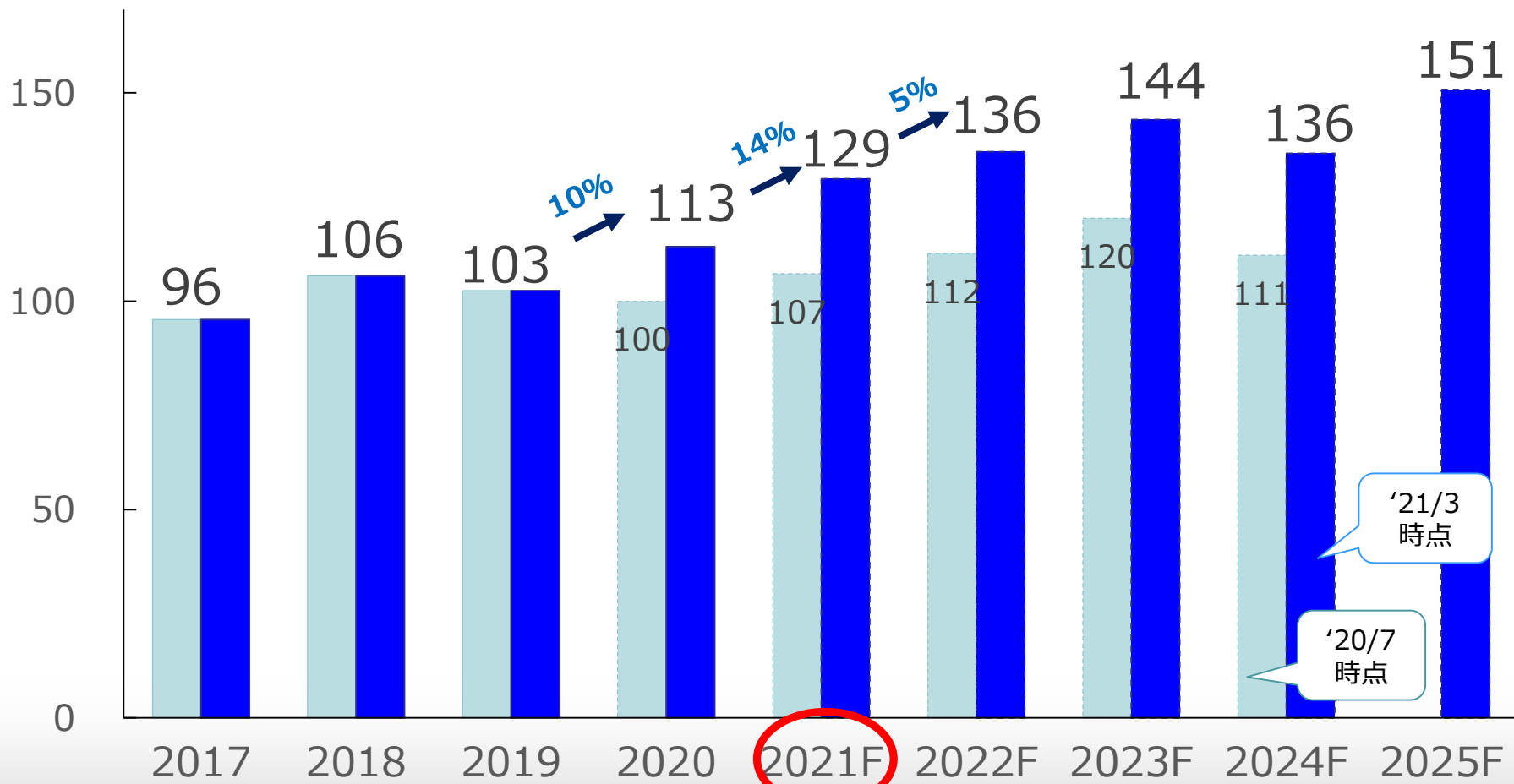
	2020	2021	2021	中期経営計画年度目標 *2		
	年度実績	年度予想	年度予想 *1	2020	2021	2022
売上高	448	480	480	460	480	510
営業利益	29.6	40.0	40.0	30.0	38.5	51.0
経常利益	28.2	38.0	38.0	-	-	-
当期純利益	19.7	21.0	27.0	-	-	-
R O S	6.6%	8.3%	8.3%	6.5%	8.0%	10.0%
R O E	9.5%	9.2%	11.7%	9.5%	11.5%	13.0%

半導体工場・設備 投資高予測

* 出典 : IC Insights 2020-7, 2021-3
当社にてグラフ作成

単位 : 10億US \$

2019 - 2022 CAGR : 9.9%



当社の事業環境

- IoT、5G、AIの発展で設備投資の拡大が期待されるが、新型コロナウイルスによる影響を注視

現在の当社の事業環境は、受注面からみると

- ✓ 半導体前工程 ロジック/ファウンドリ、メモリ、パワーデバイス、Siウェーハ
いずれも投資継続、拡大
- ✓ 半導体後工程 FO-WLP/PLP、2.5D等
先端パッケージ市場拡大

- ✓ ①枚葉式Siウェーハ洗浄装置、②枚葉式リン酸エッチング装置、③高精度フリップチップボンダは引き続き受注・売上とも順調に伸長し、トップシェア維持・拡大
- ✓ ④フォトマスク製造向け装置も、先端マスク向けの凍結洗浄技術の開発やエッチング装置の量産機受注、また、EUV世代の本格量産に向け取り組みを加速



①枚葉式Siウェーハ洗浄装置



④フォトマスク製造向け装置
(枚葉式フォトマスク洗浄装置)

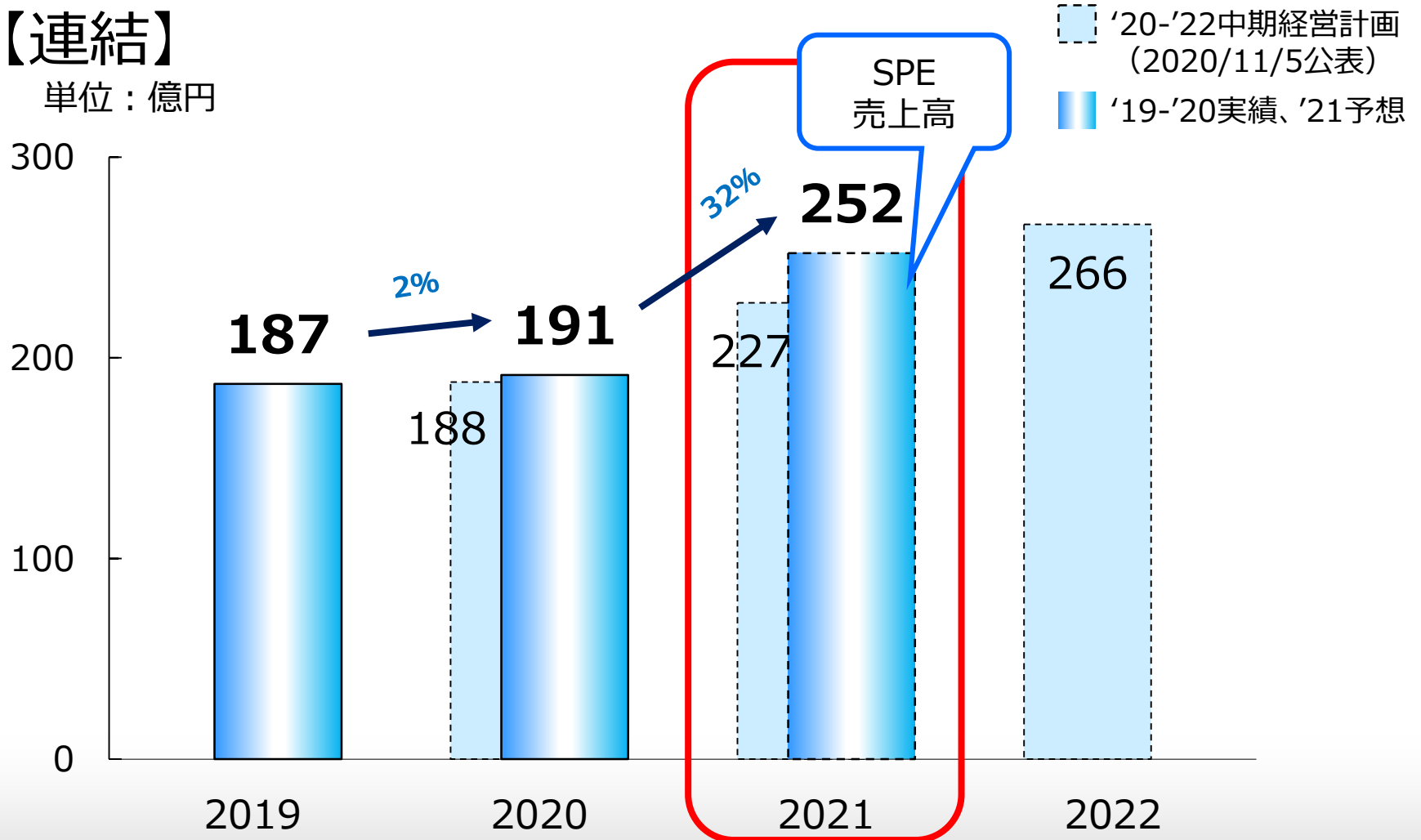


③高精度フリップチップボンダ
(FO-PLPボンダ)

グローバルニッチトップ製品によるSPEの拡大

【連結】

単位：億円

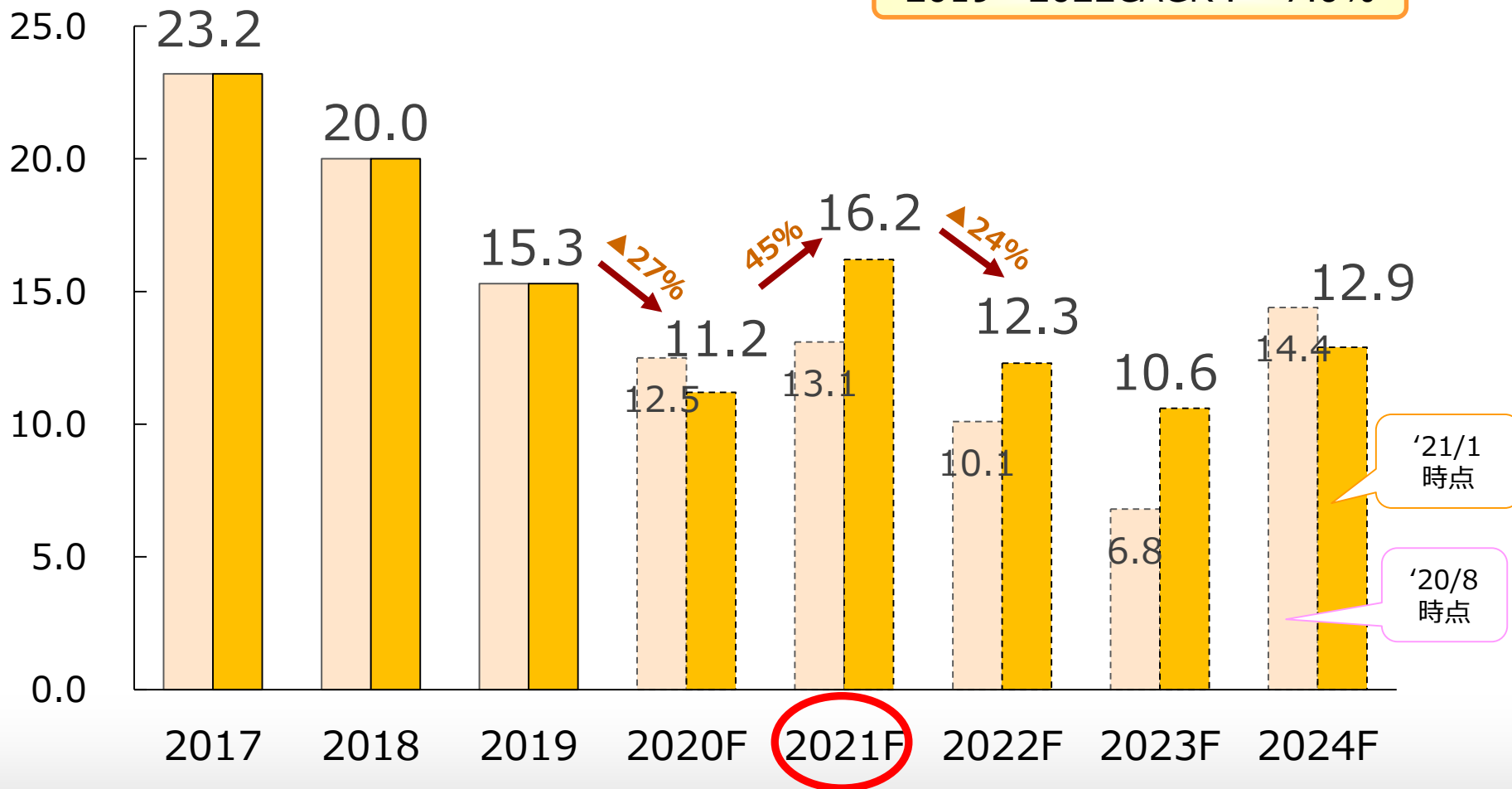


設備投資高予測

* 出典：DSCC 2020-8, 2021-1
当社にてグラフ作成

単位：10億US \$

2019 – 2022CAGR：▲7.0%



当社の事業環境

同様に受注面からみると

- ✓ FPD前工程 大型LCDは需要増により新規 & 増設投資計画が具体化、
中小型OLEDは投資時期が流動的
- ✓ FPD後工程 大型、中小型とも前工程と同様の状況であるが、モニタ用、車載用などの投資の伸びを期待

- ✓ ①OLED向け真空焼成炉は真空焼成方式の優位性（清浄度、生産性、材料）を訴求、②中小型OLBは独自の新技术で品質の向上を訴求し、実績積み上げ中
- ✓ μ LED向けは重要顧客からの③マストランスファ用及びリペア用ボンダのリピート受注に加え、高精度タイリング設備、樹脂モールド設備の開発など、市場発展に貢献する



①フレキシブルOLED向け真空焼成炉



②OLED向け中小型OLB

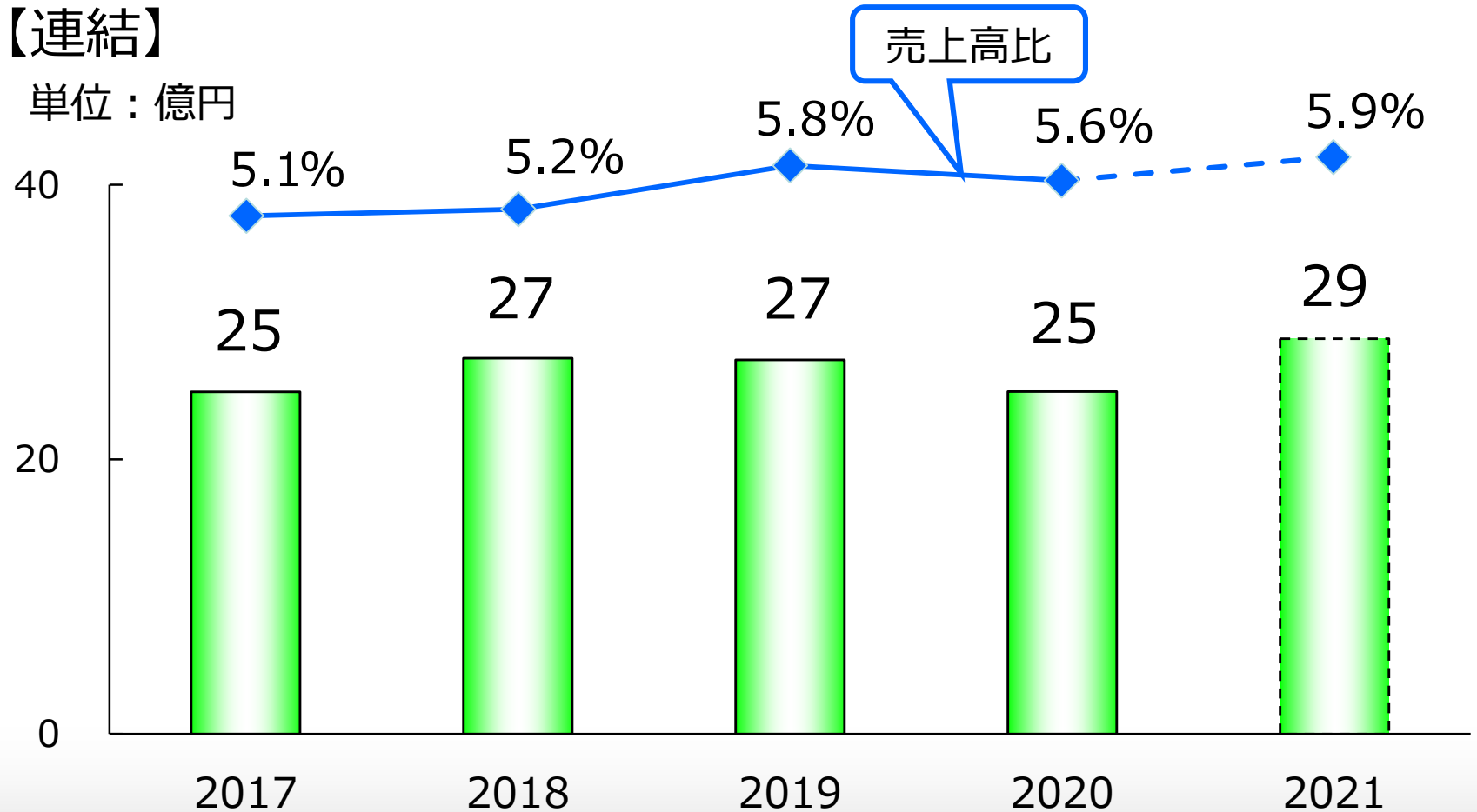
③高精度 μ LEDボンダ

研究開発費

SPE分野に注力

【連結】

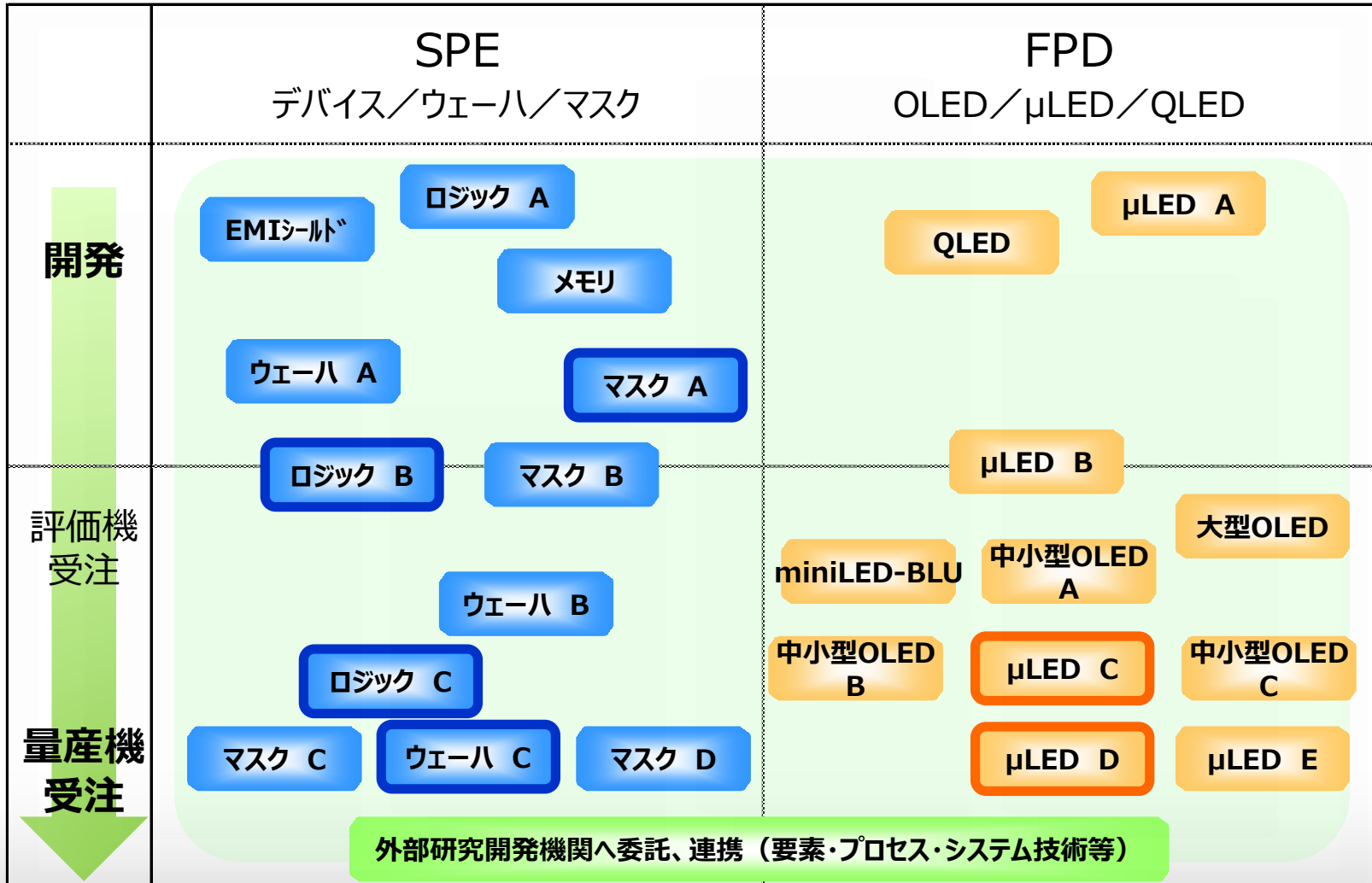
単位：億円



他社との連携 ①

- 装置メーカー、材料メーカー、デバイスメーカー、研究所や大学等と連携し、強い製品をより早く、速く開発
- 主な株主（株式会社 東芝、信越エンジニアリング株式会社、株式会社 ニューフレアテクノロジー）と連携
- 主要なテーマ計23件（前回17件）進行中
特に、ウェーハ、マスク、ロジック、 μ LEDが順調に進捗し、事業の拡大に寄与

他社との連携②

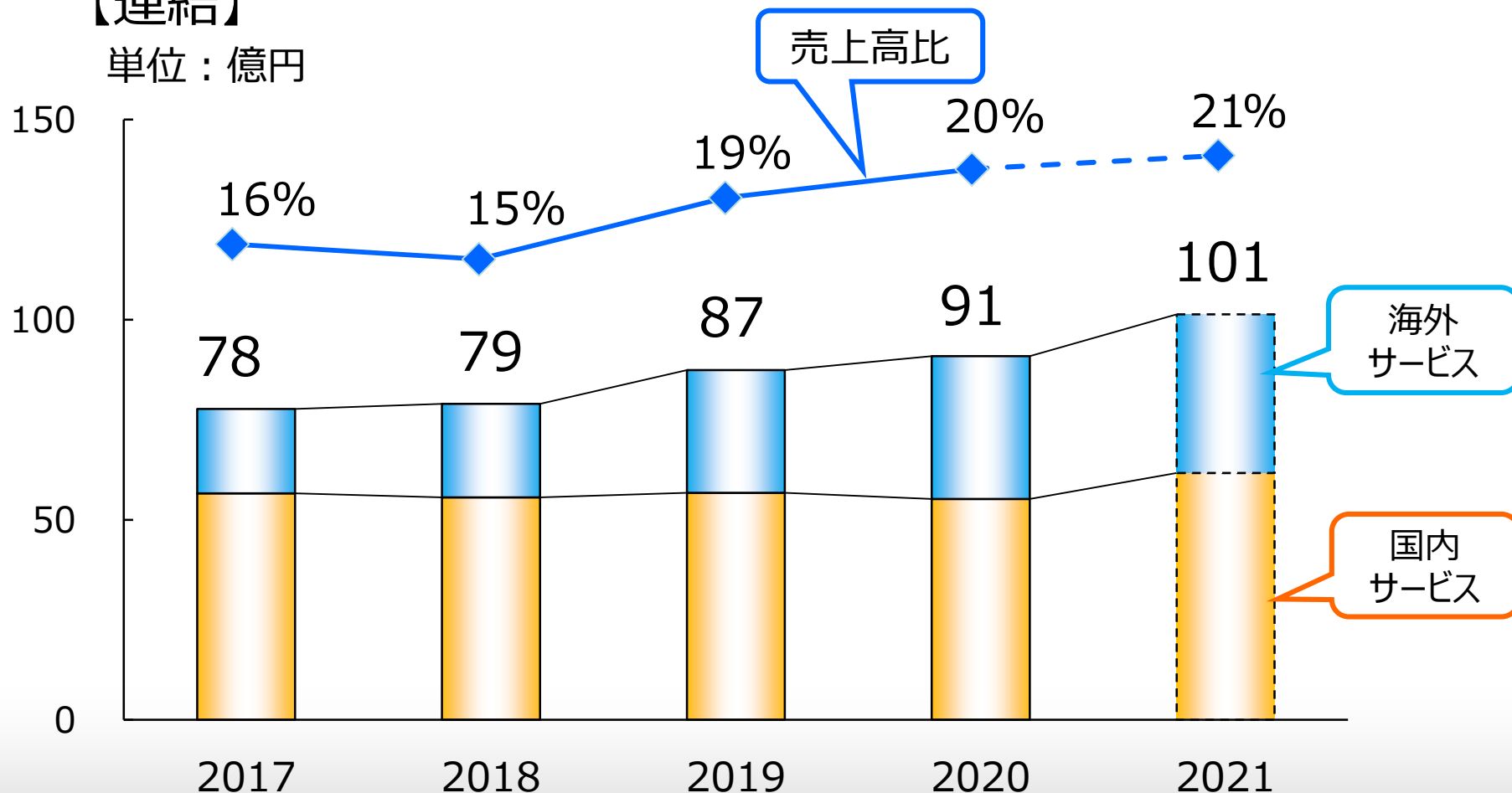


サービス事業売上高

中国市場でのサービス事業を強化
売上高比率目標 22年度23%

【連結】

単位：億円

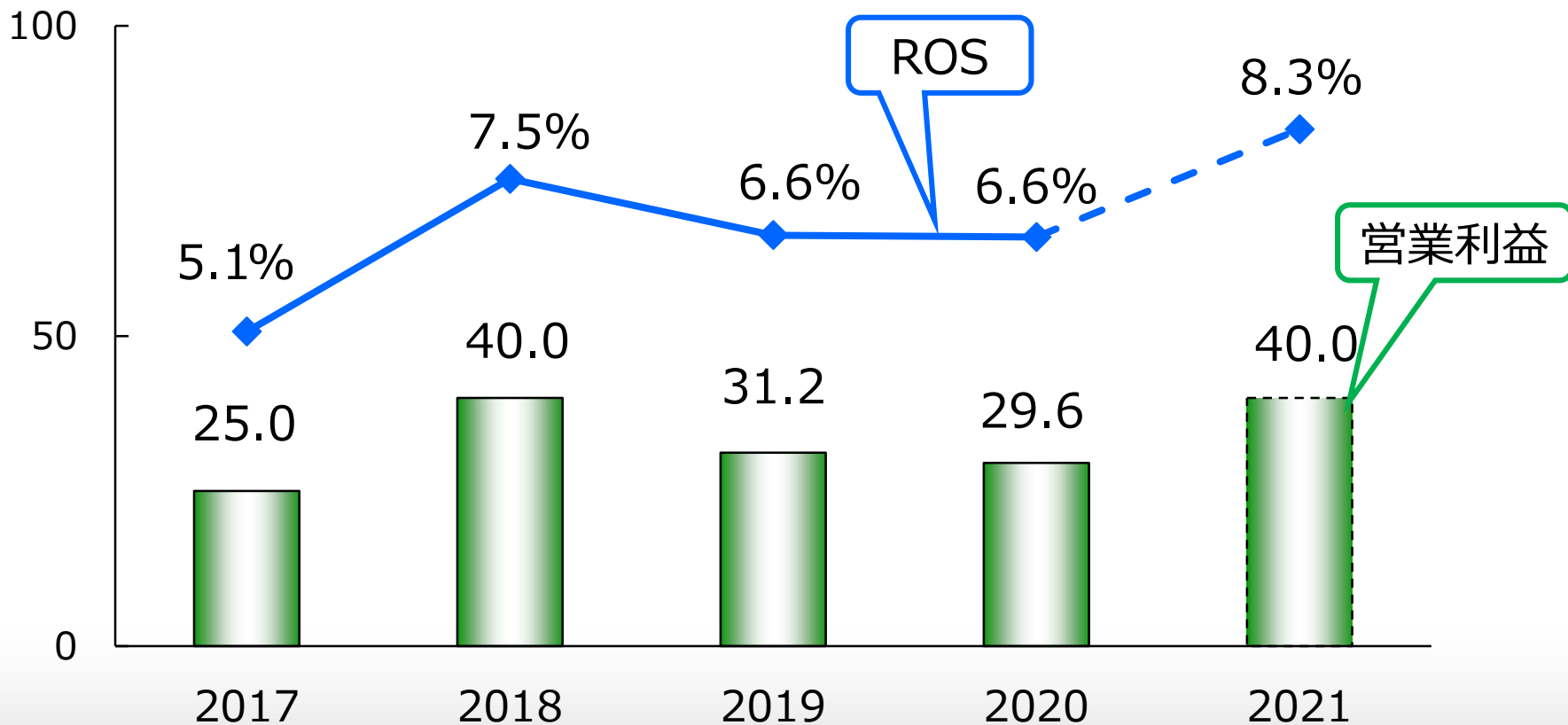


ROS改善

【連結】

単位：億円

高付加価値製品の拡大、
変動費の削減、固定費の改善により
ROSを改善 目標22年度10%



製品

環境調和型製品の割合
'20実績：対売上高96%
 (目標85%以上)

事業プロセス

事業所エネルギー使用量*1
'20実績：対前年度1.7%削減
 (目標1%削減)

ゼロエミッション比率*2
'20実績：0.06%
 (目標0.5%以下)

*1: 原単位当たり

*2: 埋立物量/総廃棄物量

持続可能な社会ならびに
 人々の豊かな暮らしの
 実現に貢献できるよう
 ESGを重視した経営を
 行ってまいります



Smart Solutions & Services for Your Manufacturing

「Smart」「Solutions」「Services」の3つの「S」で
お客様のものづくりに貢献してまいります。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承願います。

END